

## 第 6 回 子ども未来応援会議

日時 平成 24 年 6 月 21 日(木) 午後 1 時 30 分より  
会場 生涯学習センター 第 1 学習室  
出席者 委員  
大坪委員長、岡村委員、内川委員、片山委員、小山委員、佐野委員、  
清水委員、榛葉委員、禰津委員、堀見委員、松永委員、村本委員

事務局  
教育部長、生涯学習課職員、教育推進室職員

委員長 こんにちは、先程、少しお話を伺いましたが、この会議の議事録をインターネットで紹介していますが、アクセス数が多いとのことでした。教育については、関心が高いということだと思いますけれども、興味を持っていただいていることは大変嬉しいことです。

今回、一点目の第三章の案について事務局から説明をお願いします。

事務局 前回、この会議に第 3 章の案を提出させていただきましたが、「会議を受けてまとめたことはわかるけども、すっきりしない部分がある、藤枝の方針なのですっきり作りなさい」というご指摘をいただき、もう一度新たに作りました。

教育日本一を目指して取り組んできたこと、子供に身につけてほしいこと、私たちが目指すのは「学びの環境モデルふじえだ」ということは明らかになりましたが、それをずっと貫いていく教育の基本理念はどうとらえたらいいのか迷いが生じました。そこで第 3 章のつくりを藤枝の教育のめざす姿、1 番に「教育理念」 2 番に「子供に身につけてほしいこと」 3 番にめざす「教育日本一の姿」としました。

藤枝がめざす教育日本一の姿は、皆さんに定義していただきました。「子供の笑顔が溢れ、どの子も夢や希望に向かって生き生き生活している。」「子どもを中心に、大人も学び合い、支え合いができています。」と打ち出します。

このイメージを実現するための「学びの環境モデルふじえだ」ということで、すべてを貫くものの 1 つは「楽しさ」。学ぶ楽しさを大人も子供も味わえる教育基本計画は珍しいと思います。

「学びの環境モデルふじえだ」の 3 つの柱として、1 点目は「市民総がかり

で子供の未来を応援します」です。また、ご指摘がありました「遊び」については、0歳から生涯教育まで貫くものとして、もう一度考えながら施策の中に盛り込みます。

2点目は、「一人ひとりの子どもに未来を生き抜く力を育てます」です。子どもたちが将来大変な時代であっても生き抜いていけるだけの、たくましさや強さ・しなやかさも備えた子どもにするために座学だけではなく、体験を重視したものを盛り込んでいくということです。

3点目は「誰でもどこでも学び合う環境を整備します」です。地域に誇りを持つ子どもたちということ意識しながらの施策づくりをします。

方針としては3つを柱にした「学びの環境モデルふじえだ」を作っていくとまとめたつもりでございます。

また、子供に身につけてほしいことで、創造力・問題解決力・コミュニケーション力の3つを掲げてありましたが、補足的に書いてありました「当たり前前を当たり前前」ということについて、徳性・社会性を含めたものとして4点目に入れさせていただくのはどうかということで、つけ加えました。

全体を貫く基本理念についてですが、今までの会議をまとめて、どんな言葉がキーワードとなるか考え、事務局としては「自律（自立）」と「協生」という言葉を取り出したのですが、「協生」は「協働」とした方がいいかもしれませんが、こうしたキーワードが必要なのかも合わせてご協議いただけたらと思います。いずれにしてもこの資料をたたき台に、もう一度第3章についてご意見いただけたら幸いです。お願いします。

委員長 はい、ありがとうございました。みなさんのお手元に案が配られていて「基本理念」のABCと「子どもに身につけてほしいこと」1234と言う部分、「学びの環境モデルふじえだ」など、ご意見をよろしくお願いします。

A委員 資料を読ませていただいて、(1)の新しく書いていただいた「基本理念」と(3)の「教育日本一の姿」を一緒にしてみたらと考えています。

理念とは辞書では事業・計画などの根底にある根本的な考え方のことを指します。今回はこの教育振興基本計画を市の総合計画の下位計画として仕立てると。その総合計画では教育日本一と言い、その教育日本一を教育基本計画にどう盛り込んでいくのか。そのためにこの会議で教育日本一について、ずっと話し合ってきたと思います。

その中で藤枝がめざす教育のあり方を、皆さんが提案してくださっていて、それを藤枝の教育理念と表すことができると思います。ですから、(1)の「基

本理念」と(3)の「教育日本一の姿」をくっつけた形とし、その中で「学びの環境モデルふじえだ」と打ち出していく。

学びを通してどんな藤枝になって欲しいのかというところまで書くのであればキャッチフレーズみたいなもの、「〇〇の人」や、「〇〇の環境」のようなものを打ち出せば基本理念はしっかり謳えたことになると思う。

(2)の子どもに身につけてほしいことには、市の総合計画の中の重点プロジェクトとして、「子どもの未来応援プロジェクト」に掲げているので、子どもにどう育てほしい、こういう事を身につけて欲しいということで、ここに藤枝市の教育のめざす姿として盛り込んでいければいいのかな。

そして、もう一方には、そうなるために、「学びの環境モデルふじえだ」という仕組みをどうしたらいいのか、「『藤枝型教育システム』とか『地域や家庭の教育』を活かしていきます」と文章にすると目指しているものと、それをどう進めていくのかの方向性も見えるので、すっきりすると思います。

私は資料をいただいた時に、また別に基本理念を出すとなると理念と日本一はどう違うのか。新しい言葉が出てくることで複雑になり、結局は不透明になる。この会議でも、わかりやすくしましょうという意見でまとまっていたので、その形で理念と日本一を繋げていけたらいいと思う。

委員長           内容や言葉について何かご意見ありませんか。これは言わない方がいいとか、重要なキーワードはここなど。

B 委員           「共奏」と「協生」は造語で辞書にはないですね。そういう所ばかり気になってしまって。そういうものは要らないのではないかな、素直に書けばいいと思うのですが。

基本理念は書いてあるけど、パッと見て基本理念だけあればいいのだけれど、その次にも「子どもに身につけてほしいこと」とあり、次のページにも「子供の笑顔が溢れ」とあって、どれも理念みたいに書いてある。基本理念が一番上にあり、それ以外は具体的なことにして差をつけないといけない。集中に欠けると思うので、理念なら理念だけをきちんと書くべきと思う。

委員長           造語を使うというのは一般的にしない方がいいですか。

B 委員           新聞などは中学生が読んで分かるというのが基本のため、造語というのは基本的に使いません。もし、どうしても使わなければならない時には印をつけるとか特別に明記すべきではないですかね。

委員長 教育委員会の使う言葉だから、あんまり外れてはまずいだろうと思ひまして。私も必ず造語らしい言葉は辞書ひいて、辞書にない言葉は使うなど言ひます。これは造語ですよとはっきりさせて使うのはいいけど、それ以外ならあんまり使わない方がいいと言ひています。

教育委員会が造語って言うのは、どうかなって印象はありますが、新しいものを作ろうって時には言葉を新しくするというのはある。

C 委員 「共奏」という言葉は藤枝市のスローガンとして使っている造語ですよ。私も調べたのですが、共に奏でる。「共奏」については、それにかかる市の思ひがあるのであれば。

事務局 「共奏」については、総合計画の中で使っている造語です。

D 委員 私は「共奏」については知っていましたので、「自律」と「協生」という言葉にひっかかっている、「協生」は普通「共生」ですよ。また、「じりつ」は「自律」と「自立」2つありますけど、「自律」については、使う言葉ですけど、ちょっとひっかかります。

事務局の説明で「協働」という言葉も出てきましたので、それで「協生」という言葉が生まれてきたのかなと。意味は訴える言葉だと思ひます。

もう1つ言うと「郷土に愛される人づくり」っていうのがありましたけど、「郷土を愛する人づくり」の方がいいと思ひます。藤枝を愛する子どもや大人を育てることで、また藤枝に戻ってくる。郷土を愛する方が大切なのかなって言う風に思ひました。

先ほど A 委員が言ったように、この基本理念とめざす教育の姿が繋がっているとわかりやすい。子どもに身につけて欲しいことの、この4点はどこに入れたらいいのかなってこの位置になっちゃうのかなって思ひますが。

前回のみなさんの意見が第3章に凄く網羅されていてすっきりしているなっていうのが印象ですが、めざす教育日本一姿の中のスローガンがすごくいい。特に二文目の「子どもを中心に、大人も学び合い、支え合いができている」っていうところが姿を現していると思ひました。

E 委員 基本理念の案を見ると、A・B案は意味が近い。C案の「未来を拓く力を持った」は、分けて展開した方がわかりやすいと思ひます。

ただ、基本理念は子どもが見ることがあると思ひるので、もっと分かりやすい言葉で理解しやすくしたい。後ろにある教育日本一の姿の文章を理念にした方が大人にも子どもにもわかりやすい。

委員長           この中で、「これは重要度として後ではないか」とか「これは中心ではないか」などありませんか。作りあげていく中で「内容が共通するので要らない」ということもあるかもしれない。書く方はできるだけ書きたい、でも、聞く方は頭に入らないのですよね。一つだけでも頭に入れてもらえればいいと思うが、見ていて混乱しないように、逆に整理が必要だと思う。

F 委員           これを読ませて頂いて私は頭が混乱してしまい、少し整理した方がいいなと思いました。基本理念のところに造語って言われました「元気共奏・飛躍ふじえだ」とありますが、このスローガンの下に子ども未来応援会議がある。

                  すごく感じたのが「学びの環境モデルふじえだ」のところにある「市民総がかりで子どもの未来を応援します」ってすごくシンプルで良い。わかっている人がやるのではなく、市民みんなも含めて教育日本一にみんなで動くっていう。難しい言葉を使わない方が分かるのではないか。

                  もし、それをスローガンにした場合、めざす教育日本一の姿はと言えば「子供の笑顔が溢れて、大人も学び合う」という姿だよと。

                  もう1点、2枚目の学校教育と書いてありますね。この学校教育って概念は市民のほとんどの方は義務教育でいう小学校・中学校、そして高校のことだろうと思うでしょう。でも、この会議で議論してきたのは0歳からの教育だと、「楽しさ」や「遊び」であると。「遊び」の中で社会性・人間性・言語とか知的な発達を促される。その「0歳から」についての中心は子育て支援センターであり、保育園であり、幼稚園が乳幼児とその家庭教育に密着してやっている。

                  でも、学校と言うと大半の方のイメージから幼稚園・保育園・子育て支援センターは除かれてしまっていると思います。「学校の教育力」のところを読んでも上から7行目までは、小中学校のイメージ。せっかく議論してきたので、従来の捉え方ではなく、「学校」という言葉ではなく、もう少し違う言葉を使ったジャンル分けでもいいのではないか。

                  また、これらの実現には行政と手を繋がないと本当の日本一にはならないわけで、この前に研究会に行った時に藤枝は公立の幼稚園が無いので、凄く厚く行政から幼稚園教育に援助があるという話に参加者が驚いていた。特別支援で園に入ったりすることも含めて、それは財産だと思う。

                  誰にこの言葉を届けるかっていうと市民であり、なるべくわかり易くしたい。「当たり前のことが」の「当たり前」の概念については、もう少し深く議論をした方がいいかなと思うし、「学校」という言葉を使うのは、少し考えてもらいたい。「地域」「家庭」などの言葉と合わせると難しいなとも思うが、頭

の中が繋がるように、スムーズにきれいに流れるようにしたい。

委員長           どこかできちんとテーマ別というか、絞り込んで整理したいということですね。

F 委員           「元気共奏・飛躍ふじえだ」という街づくりの理念が市の総合計画にあり、その計画の中に教育日本一を含む「4つのK」がある。この教育日本一の姿のめざすものはこういうことで、子どもにつけて欲しい力はこうだよ。と言ってくれば、私としてはわかりやすい。

※ ホワイトボードにより第3章の全体構成を整理した。

A 委員           理念として「子どもの笑顔が溢れ、どの子どもも夢や希望に向かって生き生き生活している。子どもを中心に、大人も学び合い、支え合いができています。」をそのまま持ってきていいのか。本当はキャッチフレーズ的なものがあればいいのですが。一般的には体言止めですよ。

G 委員           この資料の基本理念 ABC 案から選ぶのですか。私には意味が伝わってこないです。この文章自体が読んでいてもわからない。「郷土に愛される人づくり」はまだわかりますけど、それ以外は「うーん」と悩んでしまう感じです。  
「教育日本一の姿」という部分が長い文章じゃなくて、キャッチフレーズ的なものの方がいいとことですかね。

委員長           私たちがよくやるのは、理念というのがある、その次にミッションがある、それは役割とか行動という意味ですが。どうすればそれが達成できるのか。そういうのを順序立てして作るのをみんな頭に描いているんじゃないかな。だから上手く順序立てできないから、そこを皆さんでどう議論されるか。  
教育日本一と言わないとすると、その姿は何ですか。しかも、今の子どもじゃなくてこれから5年10年先の子どもの姿です。どういう子供を育てていきたいのか、教育日本一っていった場合に、どういう子どもが出てくれば教育日本一なのか、それを作っていないとモデルにならない。まあ、この議論は少し置いておきましょう。

H 委員           自分の中で考えがまとまらないのですが、教育日本一の街の姿っていうところに「大人と子どもの関わりの中で子どもの笑顔が溢れて」という文章がありますけども、子どもの姿としてわかり易いのですが、この子どもの姿

の中に (2) の「子どもに身につけて欲しいこと」が含まれていて「生き生きと生活している」ってことであればこの辺はリンクしていくのかなって自分の中で思いました。

また、基本理念案のところではAは「自立する力」ですが、Bでは「自律と協生」と自分を律するの「自律」で、この「律」って私の中ではすごく厳しいイメージがあるのですが、この「自律」の意味が私の中では理解できていないと言うか、藤枝の一人ひとりが自分の中で自分を律するということ、それがどう関わりを持つのか、イメージできないです。

I 委員            この第3章の藤枝市の教育の基本構想で言うところの「教育」とは、何を指している「教育」なのですか。まず、そこを確認したいのですが。

事務局            この「教育」は、行政上で言う学校教育も生涯教育も含んだ「人を育てる」というものです。

I 委員            生涯教育も含んでいるんですね。委員の皆さんはそうは考えていないと思いますよ。委員長も子どもに対する教育だと考えていますよね。そこが、この議論が混乱してしまっている原因だと思いますよ。

まず、この「教育」が誰に対する教育、学習のことを指すのか委員の皆さんで明確に共有しないと、まとまらないと思いますよ。

もし、子どもに対する教育としたときには、この資料の基本理念案 ABC は明らかに難し過ぎます。そこに生涯学習、藤枝市全体の人づくりの理念を作りたいと考えると、こういう難しいものになってしまうのかなと思います。

その辺りの区別がはっきりできれば、もっとシンプルにできるのではないかと思います。あれもこれも全て盛り込みましたという感じで、市としてどうしても大人も含めた教育振興計画なのでそれにあつた理念や方向を示さなければならないのであれば、子ども向けと大人向けを上手く整理しなければならぬのではないかと。

でも、元々「子ども未来応援会議」の名前で始まっているので、委員の皆さんは子どもの教育のことを考えているはずですよ。そこが噛み合っていない部分だと思います。

G 委員            私は子どもを大きく育てて社会に出していくために大人も勉強をしなければという意味で、やはり「子どもの教育」で考えたいですが。

J 委員            一回目からの議論の流れの中で藤枝らしいものを作りたいという話からス

タートしたと思うが、行政はどうしても硬い言葉でそれらしいものを作ろうとする。でも、そうしたところから脱したものにしようと議論してきたはず。

前回の議事録を見て、「あいさつ運動」という意見も出ていて、そうだな、そうしたシンプルなものでいいよなど、こういうことから大人も子どもも良くなればいいなと個人的に感じていたところなのですが、まとめた資料を見たときに、「何である議論がこんなに硬いものになってしまったのだろう。」というのが感想です。

一般的には、こうした月並みなどこにでもあるものが良いのかもしれないが、せっかく子ども未来応援会議を作って、硬い頭を柔らかくして藤枝らしいものにと議論してきたので、もっと柔らかいものにしたい。

## K 委員

それを踏まえてもう一度読むと、大人のことはあまり考えられていないですね。「子どもに身につけてほしいこと」だし、「めざす教育日本一の姿」も子どもが中心です。「学びの環境モデルふじえだ」の中で大人も触れられていますが。

教育振興基本計画の中で「教育日本一」の範囲について、子どもをターゲットにすると決めてしまうことも一つだと思います。裏側には大人もいるわけで、そういう意味で生涯教育を入れていくのはいいだろうと。

私自身の経験で言えば、スローガンでは子どもは変わらない。スローガンで変わるなら、もうとっくに変わっている。だから、行動目標的なものを決めていくことがいいと思うが、そういう意味で「あいさつ運動」のような具体的なものはいいと思う。ただ、みんなで知恵を絞って出たのが「あいさつ運動」なのかという感じはする。そういう意味で非常に難しい。

それで資料のような高邁な言葉を少しは出したい気持ちになるが、スローガンでは変わらない。この資料の言葉はどこでも言われていることですよ。せっかく「学びの環境モデル」という言葉が出てきているので、そこをもっと具体化していく。

また「地域の教育力」が一番に来ているので、そこに何を期待するのか。

組織もいろいろあって、自治会では家庭教育が大事だということで、「藤枝子育て12ヶ条」のポスターを作成して藤枝市内全戸配布した。他の組織として青少年健全育成は町内単位に全市を網羅しているし、学校を中心としたPTAという組織もある。しかし、各組織の横の繋がりはないので、「藤枝子育て12ヶ条」のことを青少年健全育成の方は知らないと思う。

地域の教育力を考えた時に、今ある組織を横断的に繋げて、この会議で出たようなことを共有して同じことを考えるだけでも、どこかで効果が期待できると思う。だから、一つはやり方、目標への迫り方がすごく重要だと思う。

この会議としてどこまで考えるかもあるが、具体的にどの組織がどうしたことをするのも重要だと思います。

委員長       私は元々子どもを中心に考える中で、この会議の発足もあったのだらうと思っています。ただ、子どもの教育を考えていく中でも、大人の教育という問題が外せないという議論になってきた。最初に K 委員が提案してくれたと思いますが。

K 委員       そうです。一番の問題だと思います。家庭教育の重要性ですね。子どもの教育を考えた時に疑問を感じざるを得ない若いお母さんやお父さんもたくさんいて、モンスターペアレンツもいる。学校は学校で頑張っているし、地域は地域で、行政は行政で努力していると思うが、家庭に対しては何かしたくてもやりようがない。

                だから、一つの考え方として親は当てにしないというか、教育によって次世代の親は変わっていくかもしれないというのはある。

委員長       子どもの教育こういう風にしようとすることによって親もだんだん変わるかもしれない。

                みんな子どもの教育での悩みが多いですし、あまり広げてしまうと良くないので、子どもの教育に絞った方がいいと思います。

A 委員       でも、子どもの教育をどうするのかは今までずっとされてきた議論で、それでは変わらないから、大人の教育も考えましょうという意見が出てきている。大人の教育を入れていけば、独自性も出てくる。

                子どもの教育の話はずっとされていて、学校もいろんなことを取り組んできたが、その結果が現状なのです。やはり、学校という閉ざされた空間で頑張っても、家に帰れば親がいて、その大人の姿を見て子どもは育つのです。

                子どもに絞らないとまとまらないという話は分かるが、具体化する時には大人の部分が入ってくるような仕掛けが必要だと思う。

D 委員       先程、私は「めざす教育日本一の姿」の「子どもを中心に、大人も学び合い、支え合いができていく」という部分がいいと意見したが、そこには A 委員がおっしゃるような藤枝らしさが出ていると思う。

                子どもの未来を考えるのだけれども、そのときに大人も学び合い、支え合いできる藤枝でありたい。それが、この会議でも議論されたことだと思う。

                学校にいと、地域の力っていうのはすごく大きい。その方たちの年齢は

60歳を過ぎた方たちで、子どもも元気があつて、親世代だけが沈んだ印象。家庭の教育力と言ってしまうとそれまでだが、大人も学ぶという、経済的な観念だけに囚われるのではなく、心豊かに文化的な面にも目を向けられるようなことを学び合い、支え合いの中に強調してほしい。地域の団体や企業などが出前講座などいろいろな器を提供してくれるが、選択する段階で親が関わる。しかし、そうした器さえ与えておけば子どもはちゃんと育つだろうと思っている親も多く、親の心を豊かにする施策もほしい。

I 委員 教育振興基本計画というのは、藤枝市総合計画のグランドデザインの中の「輝く人材創造戦略」を受けて策定されるわけですね。

グランドデザインでは、「教育環境の充実」、「生涯学習の推進」、「青少年の健全育成」という3本の柱があつて、この3本の柱を含めて教育振興基本計画を作るならば、今の案ではまとめ方が違うのではないかと。もう一度、骨子を考えてもらって、子どもの部分については、この会議で話し合うとした方がすっきりするのではないかと。

いただいた第4章を見たときに、生涯学習とかスポーツ振興とかが一緒にまとめられているが、「市民総がかり」で子どもの教育と言っても生涯学習とは位置づけが違うと思います。

また、こういう人になって欲しいというイメージがあると思うが、それを突き詰めていくのも分かり易いのではないかと。昔ながらの「道徳心に溢れて」というような型にはめた教育は時代錯誤になりつつあるのかなと思う。例えば、サッカー日本代表の本田圭佑選手は道徳心というイメージではないが、ヒーローとして見られている。横並びで画一的な教育ではなく、スティーブ・ジョブズ氏のような人が出てくる教育というような型破りな教育というものもおもしろいのではないかと。

委員長 I委員も子どもの教育という視点ですかね。

I委員 そうです。私も子ども未来応援会議で来ているので。できるだけシンプルで分かり易いものがいいですね。

委員長 私も教育に携わっていて、大人の世代がダメだと思う。頭も硬いし、やっていることもめっちゃくちゃ。根源的には教育は大人の自覚から入らなければいけないと思う。子どもの教育に一番責任があるのは家庭・親なのです。でも、それをここで議論しても難しいので、絞り込むことが大事だと思う。

I 委員 「遊び」が大事だよという議論の中で、好きなことに夢中になっているときが子どもが一番生き生きしていると思う。それを大人が勉強しなさいコレしなさいと言って抑え込んでしまった子の中から、手の付けられない子が出てくるのではないか。

好きなことをもう少しやらしてあげる寛容な環境が、家庭にも学校にもあればと思う。そうすれば、とんでもない才能が生まれてくるかもしれない。

K 委員 教育というのは、保守的にならざるを得ない。全ての人が納得する価値観を子どもに教えなければならぬので、当然保守的なものだと思う。だから、義務教育の中で個性なんか育つはずがないと思う。本田圭佑選手だって、基礎をしっかりとったから、今のような独創的なプレイができると思う。

義務教育では、基礎をしっかりと学べればいいので、あまり期待されても困ると思う。特別な方法があるわけではない。普通にやっている中でも個性的な子は育つ。

「子どもは未来からの留学生」と言われるが、未来のことは私たちには分からないので何をすべきかは難しいが、基礎を教えることで世の中が変わっても対応できる能力がつくのではないか。そういう意味で、ここに出ている「創造力」・「問題解決力」・「コミュニケーション力」はつけたい。

ただ、こうした能力を培うには総合学習が絶好の分野だったと思うが、学校の教師も保守的なので、いつのまにか立ち消えてしまった。

A 委員 実は私は生涯学習を専門としているのですが、生涯学習というのが一番大きな枠で、今までイメージされてきた趣味的なものではなく、子どもの教育も生涯にわたる学習の一部であると認識していただきたい。ただ、ここでの話の中では分かり易さがなくなってしまうことは理解できますので、子どもの教育に絞ることは了解しています。

もう一つ、大きな話として、市の総合計画の下に教育振興基本計画を策定する前提になっていますが、元々は国の教育振興基本計画の流れを受けてのもので、総合計画とは切り離せるものです。つまり、前回話した「日本一」はやめてはという話も、できない話ではないということです。

ただ、市の総合計画とも、国の教育振興基本計画とも整合性がとれる範囲のものでしょうから、総合計画の下位計画として位置づける方が計画自体も確立したものとなっていきたいと思います。

委員長 元々、教育委員会自体が市からは中立の組織ですから、市の計画の下位でなければいけないなんてことはない。

整合性についても、総合計画のようなものと教育振興基本計画では、影響するスパンが違う。教育振興基本計画は少なくとも10年15年は影響していく。だから、整合性はとれていた方がいいが、そんなに突き詰める必要はないと思う。

**B 委員** 子どもを育てるにはどうするかを中心に大人も学び合う。そして、10年、20年続けていって日本一になるくらいの計画にしたらいいいのではないかな。

また、理念は分かり易くなければいけない。難しい言葉を使うと高尚であるかのように感じるが、分かり易い言葉が大事。

すぐ下に「子どもに身につけてほしいこと」とありますが、いきなり具体的にすぎるので、これは文章中ににじませるような形でいいのではないかな。また、4番目の「当たり前が当たり前でできること」は他の3つと並列できないもので、他の3つの上にある包括した内容のものという位置づけになると思う。

**J 委員** 以前に、地元のお祭りで、踊りの師匠が子どもを叱ったことに対して、その親が「私も怒ったことがないのに」とクレームを言ってきたという話をしたが、ここまでの議論でも、子どもの教育を語る前に、まずは親をしっかりさせないと10年経っても変わらないのではないかな。親に対する教育という部分で具体的なものを入れていきたい。

子どもを中心にといいのですが、親の部分も入れたい。

**B 委員** 親は、そのまた親を見て育ってきて、変えるのは難しいのではないかな。

子どもの教育によって、その世代が親になった時に変わること期待した方がいいのではないかな。

**A 委員** ただ、ずっとそうやって教育をしてきて何も変わっていない。親にできるものも何かしらあるはずだと思う。例えば、親になるための教育というのは存在しない。経験的なものはあるにしても、ある日から突然お母さんと呼ばれる。今の人たちは、教わるということはちゃんとした場があるものだと思うから、一度きっちり教えてあげれば変わるかもしれない。

子どもじゃなくても、大人になってからでも、気づけば変わる可能性がある。その可能性に期待する施策を藤枝市にはやってほしい。

**F 委員** 一つ目として、この教育振興基本計画が誰のためにあるかと言えば、市民が子どものことを考えようというためにあるわけで、キーワードは「わかり易

く」が一番だと思います。

それと、「あいさつ運動」が出ましたが、「あいさつ運動」は昔からやり続けてきたことで終わったものという感じで、改めてもう一度、若いママたちを含めて運動にするということは、非常に難しいと思います。

今、私立幼稚園が取り組み始めたものとして、「ノーメディアデー」があります。月に一日だけテレビに布を被せて見ないのですが、それで何が変わったかと言えば、親子の会話が増えたのです。それで、誰が一番大変だったかと言えば、親たちがテレビを見ないことが大変だった。それによって、今まで見向きもしなかった紙切れを使ったような遊びを子どもがし、近所の親子が公園に集まって遊んだ。

テレビの面白さはダメだと口で言っても効果はなくて、テレビとは違う面白さを教えられるように幼稚園のプログラムに組んでいる。

30代の若いパパの話だが、幼稚園から子どもが帰ってきた時に、爪に泥が入っていると、何でしっかり洗ってくれないのかと思っていたが、子どもと一緒に地引網の体験をし、砂遊びを経験してからは、爪の泥を見て、今日も子どもがたくさん遊んできた証だと思えるようになったと幼稚園に手紙をくださった。

人を変えていくのはすごく難しく、今の親は80年代生まれが中心なので、もうテレビの時代。木登りや棒切れで遊んだ世代とは違う。

静岡のある幼稚園では、保護者懇談会はやめてしまって、親子みんなで混合戦という遊びをしているが、夢中になるのは親の方で、自分が子どもの頃には経験がないので、「泥遊びってこんなに面白いんだ」と言う。

ヒントはそういうところにあるのかなと。「ノーメディアデー」はもう他のところでやっているが、そうした基本的でシンプルなものをこの会議で提案できて、全市で取り組めたらユニークだし、20年後30年後には変わっているのではないか。

委員長

議論が白熱してきて、まとめるのが難しいですが、一つ計画の中に入れてはどうかと思う言葉が浮かびましたので言います。

「大人が子どもの教育に最も影響があることを自覚し、大人も学び合い・・・」という言葉を入れてみてはどうでしょうか。こうしたことを言っている計画は他にないのではないかと、「ふじえだの大人は、次の世代の子どもの教育に影響があることを自覚し、大人も学び合い、支え合い、子どもを育てる」でもいいですが、そうしないと今の議論が反映されない。とても重要なことだと思う。

子どもに一番大きな影響を与えるのは家庭であり、大人・社会だと思うが、

子どもばかりに焦点がいつてしまっているのです、こうした表現を入れるべきだと思う。

G 委員           あるお母さんが、0歳児の子どもが泣いた時に携帯電話を渡した。お母さんも0歳児とどう遊んでいいかわからない。0歳児では遊ぶというところまでもいかないが、親と子が直に接して何かをするというものを伝えたい。

この前、新しいおもちゃがテレビで紹介されていたが、画面にタッチして遊ぶようなもので、そんなものじゃなくて、親子が触れ合うだけでも遊びだということ伝えたい。

E 委員           話が変わるが、大人を見ていると文句ばかり言うことが多いと思ひまして、「ありがとう」と言うこと、何に対しても感謝の気持ちを持つことを大事にしたいなと思ひました。

この会議で、戦後の教育の中で日本人が何を拠り所とするかわからなくなっているとの話もありました。私は仕事柄、ご先祖に感謝することが身近なのですが、ご先祖が見ていると思えば恥ずかしいことはできないなんてことも、以前は普通だったと思うが、今は違う。だから、自分ひとりで生きているわけじゃないと、感謝の心を持つということも入れてほしい。

L 委員           私としては、子ども未来応援会議ということで、子どもを中心にして、そこに切り離すことができない親を加えて、「遊び」で繋ぐことができればいいと思ひています。

私自身は昔からほとんどテレビを見ない。そうした中で、子どもとは会話をする時間も多いいと思ひます。話の内容はたわいもないものですが、子どもからも自分に接しようとしてくれるのは、とても嬉しいことです。

I 委員           この素案の中の、「子どもに身につけてほしいこと」にある「創造力、問題解決力、コミュニケーション力」は子どもには難しすぎる表現ですね。

委員長           子どもだけじゃなくて、今の大人たちにも身につけてほしいですね。実は大人が問われている内容ではないですか。

I 委員           そうですね。もしも子どもに「創造力あるの？」って聞かれたら、私だけじゃなく学校の先生も答えられないのではないですか。

「創造力」なんかは、夢中になれることが重要ですし、飽きっぽい子どもも多いので、「好きなことを夢中でやり続けられる力」などと言ひ換えていい

かもしれない。

A 委員           好きなことが見つからない子どもはどうしましょう？

I 委員           それは、大人が子どもの視野が広がるような環境をいろいろ与えてあげることじゃないですか。

それから、基礎が大事だよという話は、私も全くそのとおりだと思うが、私はよく木でイメージするのですが、あいさつなどは根っこの部分で、1 足す 1 などの基礎は幹。枝葉や花は個性の部分になるとイメージしますが、今までの教育って、この枝葉や花の部分まで画一的に抑え込んできたのではないのでしょうか。そこは変えてもらいたいと思いますが、文科省の話になってしまいますが。

J 委員           私は「ありがとう」という言葉が好きです。これは子どもでも大人でも大事なことだと思う。子どもは大人に「ありがとう」と言われることで、自分のやったことが役に立ったと感じる。あいさつ運動をやるのであれば、「ありがとう」もそれに加えてほしい。

委員長           「ありがとう」は子どもの方がよく言いますよね。大人は文句ばかり言っている。

C 委員           恥かしいのでしょうか。大人は自分にとって必要最小限の関わりしか持とうとしないですよ。お節介がいなくなりましたね。

それで、今日はたくさん大事な話が出たと思いますが、これをわかり易く伝えていく、シンプルにストレートに伝えることが大事かなと思いました。そこで、提案なのですが、今の親世代は漫画やアニメで育ってきている。文字たくさん並んでも伝わらないかもしれないし、とにかくイメージしてもらうために、4 コマ漫画などで大事な部分を見せられないかなと思いました。半分冗談ですが、半分まじめです。なかなか読みとってもらうのは大変なので、まず見てもらう。それなら中学生くらいの子どもたちとっても入りやすい。

A 委員           理念についてですが、短いものを作るという方向はどうしますか。  
この案のままでは全然シンプルではない。

委員長           終了の時間が迫りましたので、理念についてどうするのか事務局から何か

コメントがあればお願いします。

事務局 当初、子どもに焦点を当てる中で子ども未来応援会議を開催することになったのですが、みなさんの意見を伺う中で、大人の部分や市民総がかりといった観点から生涯学習の視点も非常に重要だと考え、広げていったという経過があります。

骨子案には、生涯学習に限らず、スポーツ振興や文化面の内容も含まれています。今回の話を受けまして、焦点をどこに当てるかについて、子どもが中心であることは間違いのないのですが、再度、協議させていただきます。

ただ、基本的には藤枝を背負う子どもたちをどう育てていくかを中心としながら、大人も親も含めて一緒に参画できるものにしたいですし、大人に読んでもらえる計画にしたいと思います。

なお、総合計画を受けての教育振興基本計画であることは変えられないですが、委員のみなさんからいただいた意見・方向は生かしていきたいと考えています。

また、「基本理念」の案につきましては、文章を全体的に締めるためにキャッチフレーズというか端的に現すものが必要ではないかと考えたものですが、再考させていただきます。

委員長 私の大学の「オオバケ教育」はわかり易いと言われます。みなさんに何か案があればお願いします。

事務局には、今日の議論を踏まえていただいて、議論の方向としては、子どもが中心であり、大人も関係してくる部分があるということで、まとめをお願いします。

I 委員 言いつ放しでは申し訳ないので、思いつく方は「基本理念」の案を2週間くらいの方に事務局に提案しましょう。

事務局 ありがとうございます。その意見に甘えるようで申し訳ありませんが、本日は「地域ぐるみの教育」「市民総がかりの教育」についても議論していただく予定でした。その部分につきましても、具体的なもので結構ですので、ご意見いただけましたら大変ありがたいです。

委員長 今日の議論も「地域ぐるみ」「市民総がかり」の内容であったと言えると思いますが、具体的にどうするかという具体案があればお願いします。